

土地境界図作製方法

○土地境界図作製・提出の注意事項

- 下図は、署名押印前の原図の写しを持って下図とする。
- 文言や各欄の体裁は、土地境界図作製例（別紙 2－2）を基本とする。
- 原図への署名押印前に、区から下図の確認を受けることとする。

○表題部作成の注意事項

- 申出地の土地所在代表地番を記載する。
- 合意した土地所在地番が複数ある場合は「ほか」を記載する（区有地が有地番の場合も含む。）。

○凡例欄作成の注意事項

- 凡例は、実務取扱者が記載する。

○合意欄作成の注意事項

- 立会場所・土地の地番、住所、氏名、立会年月日、合意年月日の記載は、土地境界図作製例（別紙 2－2）を参照する。
なお、押印は、申出者については実印とし、隣接（対側）土地所有者については、認印可（スタンプ印等不可）とする。
また、法人・官公庁に限り、住所、氏名はゴム印可とする。
- 立会後に土地所有者が変更し、前土地所有者の立会いを新土地所有者が継承する場合は、前土地所有者の立会場所・土地の地番、住所、氏名（押印不要）、立会年月日は印字とする。
- 記入については、ボールペン等（消せるペン不可）を使用する。
- 申出者の住所は、印鑑証明書の住所を記載し、隣接（対側）土地所有者の住所は、土地所有者調書（第 1－2 号様式）に記載の現住所を記載する。
- 合意年月日は、本人が署名押印した日とする。
- 合意地番が複数ある場合は、親番の省略はしない。
- 立会場所・土地の地番（地番は登記事項証明書と一致させる）、住所は市区町村名から記入してもらう（都道府県名は省略可。ただし同じ漢字を使用する市区町村が複数ある場合には都道府県から記入する（例：府中市、伊達市））。
- 申出者が法定代理人、相続人等の場合は、記載について区から指示を受けることとする。

○実測図作製の注意事項

- 黒一色で作製する。
- 凡例の各点は、一重丸で統一する（一重丸の大きさも統一する。）。
- 方位（北側が土地境界図の上側を基本とする。）を記載する。
- 縮尺は、原則 $\frac{1}{250}$ とする。
- 合意した地番を記載する（有地番区有地との確定の場合は、当該区有地の地番を記載（例：「〇—〇（墨田区）」、無地番区有地との確定の場合は、何も記載しない）。
- 境界辺長は、小数点以下第 2 位まで（小数点以下第 3 位を切捨て）を、境界線よりも民地側に記入する。
- 境界点間（P 点間）は太線にする。
- 機械点の網を方向線（ヒゲ）で表す。
- 文字・数字は鮮明に読める大きさと記入する。
- 点名が現況の構造物等に重ならないようにする（構造物を白抜き等にする。）。
- 外周は額縁状に 3cm 以上、原図右下は縦 15 cm 以上×横 15 cm 以上の余白を設ける。
- 境界点及び引照点が図面上わかりにくい場合は、拡大図を記入する。その際、縮尺を記入し、寸法については記入しない。
- 引照点は原則として明確な永久構造物を用い、後日境界点復元に十分な点数（境界点 1 点につき、5 点程度）とする。

○作成者欄作成の注意事項

- 作成者の住所、氏名、印は、申出書と統一する。
- 測量年月日は、立会年月日以降かつ、合意年月日以前の日付とする。

○座標欄作成の注意事項

- 石標・金属標等の形状を、備考欄記載例を参照し記入する（石標・金属票等の向きも記載する。）。
- 日本測地系、測地成果 2000、測地成果 2011 を使用した際は、欄外に「日本測地系」、「測地成果 2000」、「測地成果 2011」とそれぞれ記入する。
- 任意座標系を使用した際は、欄外に縮尺係数を記入する。
- 備考欄の書き方については、備考欄記載例を参照する。

○用紙について

- 土地境界図の用紙は、日本工業規格 A 列 1 番・2 番とし、原則、強じんな「和紙」とする。
 なお、「普通紙」の使用も可とするが、「普通紙」の紙質は、長期保存に適した品質の中性紙で、品質は上質紙とする。

○備考欄記載例について

備考欄記載例	詳細
墨田区鉾	
墨田区石標 	石標の向きを表記する。
東京都石標 	同上
民石標 	同上（左記のように線の場合は、観測位置に○）
民金属標 	金属標の向きを表記する。
区道界プレート 	同上
地籍多角点鉾	区の公共座標で管理している袴付鉾
鉾(地籍多角点)	区の公共座標で管理していない袴付鉾
国交省多角点鉾	区の公共座標で管理している国交省の袴付鉾
鉾(国交省多角点)	区の公共座標で管理していない国交省の袴付鉾
区多角点鉾	区の公共座標で管理している袴付鉾
鉾(区多角点)	区の公共座標で管理していない袴付鉾
鉾	民鉾
区街区中心点鉾	震災復興図の街区中心点
区安全快適鉾	建築基準法42条2項中心点

※上記備考欄記載例以外の引照点は、わかりやすい記載（例：刻み、建物角）とする。

※建物角や塀角等は、備考に GL を記載（例：GL+〜）する。